スコーレ・マスターズ通信

第28号
平成20年9月25日

安田暎胤薬師寺管主を迎えた 首都圏「生きがい講座」に193人

7月19日(土)、東京渋谷のシダックスホールで、首都圏「生きがい講座」を開催。参加者は定員を超える193人。今年度は法相宗大本山薬師寺の安田暎胤管主をお招きし「まほろばの心」と題して、講演していただきました。

安田管主は「まほろばの心」を説明後、親子のあり方にふれ、「子供は親の背中色に染まっていく。子供を非難する前に、親の生き方を反省する必要がある」と強調しました。

講演の最後に、著書「人生の四季を生きる」から、人生120年を春夏秋冬に分け、「人生の秋は65歳から。実り、刈入れを満喫できる70代。人生の最高の価値を発揮できる時期である。70代を如何に生きるかがその人間の値打ちである」とまとめられました。

講演後、参加者の質問にも丁寧にお答えいただきました。　（白石　英樹）

「まほろば」美しい国の５つの心

「まほろば」は一番すぐれた所、美しい所という意味。「まほろばの国」を作るのは人間であり、人間の心がよくなること、即ち「まほろばの心(感謝・慈悲・敬い・懺悔・赦し)」が求められる。

1.　感謝の心　　一番大切な心。物質文明の発展に伴って、感謝の心が薄くなり、精神が貧困になってしまった。幸せは「感謝を発見すること」にある。身の回りにはたくさん感謝することがある。また、感謝の念は心だけではなく、体の健康をも助けてくれる。

2.　慈悲の心　　諸悪の根源は自己中心的な欲望にある。自己への執着を薄くする修行が大事。生理的な欲求は満たされれば消えてしまうが、人間には自己実現の欲求がある。自分の命を捨ててもよいというほどの生きがい。そこに望ましい自分を発見する美しい心が慈悲の心である。それは人のために尽くす心、相手を幸せにする心であり、与える喜びにつながる心である。

3.　敬いの心　　人間は自分が一番えらいと思いがち。人を敬うことの美しさを学ぶことが大切。人のいい所を見て、悪い所は反面教師に。人を敬えば敬うほど、その人は尊く、人を罵倒すればするほど、その人は卑しく見える。鏡の前の自分のようなものである。

4.　懺悔の心　　詫びることは勇気の要ることだが、不完全な自分の欠点を見いだし、修正する実践が大切。人間は変われることが素晴らしい。詫びることは相手の気持ちを変えることにもつながる。懺悔の心は人間に共通して、永遠に変わらない「まごころ」に通ずるものがある。

5.　赦しの心　　赦す心の尊さ。そう簡単ではないが、もし輪廻があるのであれば、来世に渡ってでもいいから、赦す心を持っていくことが豊かな心につながる。

6月14・15日のマスターズ宿泊研修より(1)
子供の危機にスコーレの適切なアドバイス

【早朝演壇】町田・相模ブロック　菊地　啓

私は、スコーレに入会させて頂いて10年程経過すると思います。正直なところ、いつの間にか入会していたというのが、本当のところです。この10年の間、何回も会長を始め、諸先輩方にお世話になってきたと感じています。

最初にカウンセリングを受けさせて頂いたのは、次男の不登校の問題でした。次男が小学校2年の時、学校での出来事が原因で学校に行かなくなりました。当時、不登校ということは、聞いてはおりましたが、まさか自分の息子が・・・という思いが先に立ってしまい、毎日苛立っていました。一度、強い口調で『学校に行け』と言って、外に連れ出したことがありましたが、次男は、結局ランドセルを背負ったまま部屋に閉じこもってしまいました。次男が言うには、『行きたいけど、行けない』ということでした。そんな状態が暫く続いておりましたが、妻と二人で会長のカウンセリグを受けることが出来ました。あの時の会長の『大丈夫です。きっと行ける様になります』という一言が今でも忘れられません。その他にも、いろいろとご指導を頂きました。お陰様で、次男は１年くらいで不登校を克服し、きちんと学校に行ける様になりました。これも、会長を始めスコーレの皆様のご指導のお陰と感謝しております。

こんなこともありました。長男が高校3年の秋のことでした。友達と学校で良からぬ事をしてしまい、それが発覚し、自宅謹慎ということがありました。金銭関係のことでしたので、然るべき処分があることは、覚悟しなければいけませんでした。何とも情けないやら、あと半年で卒業なのに…という思いで、どうすることも出来ず、毎日を過ごしておりました。（次頁へ）

学校からの通知があるその日の午前中に、妻と長男の３人で、会長からご指導を頂きました。その時のお言葉は、『天に貯金する生き方をしなさい』『次の学校を早く決めなさい』ということでした。長男も納得している様子でした。午後に、学校に行き、学校側の通知を聞いて参りました。結果は、『自主的な進路変更とします』ということでした。

会長からご指導を頂いておりましたので、結果を素直に受け入れることが出来ました。結果をどうこう悩むよりも、転校先を早く見つけようという前向きな気持ちになりました。妻も長男も同じ気持ちだったと思います。スコーレで知り合った知人に協力して頂き、単位制のサポート校に、すぐに入学する事が出来、翌年の３月には卒業、そして大学進学と、何事もなかったかの様に、ことが運びました。

スコーレでは、人生の危機管理を教えて頂いておりますが、過去を振り返ってみますと、私の家庭の危機の時、いつもスコーレに助けられて参りました。おかげさまで、現在では、長男は大学４年になり、来春に向けて就職活動の真っ最中です。次男は、大学２年になり、学校・サークル・アルバイトと忙しい毎日を送っています。こうして、平凡ではありますが、健康な家庭を築くことができたのも、スコーレを学んでいたからこそと感謝しております。本当に有難うございました。

人生というものは、いつ何時、危機がやってくるかわかりません。危機に直面したとき、うろたえずに、状況に応じて最良の判断をし、危機を乗り越えられる様、今後もスコーレを勉強していきたいと思っています。ありがとうございました。

♪♪♪ 投稿コーナー①　♪♪♪

息子の成長を喜ぶ

神奈川ブロック　　近藤　浩二

今年の2月に、岐阜の「生きがい講座」に参加した折に永池会長へ私は質問をしました。「私の転勤によって川崎の中学へ転校した息子が、また父親の転勤で友人と別れるのだからと友達をつくるのを避けているように私には見えて、不憫でなりませんでした。あの時、私はどうすべきだったのでしょうか？」と聞いたことがあります。そんな私の息子は、試練を乗り越えこの春無事、高校を卒業することが出来ました。

ところで、人生、生きた証の宝物とは、何でしょうか。私は、数々の体験、経験をすることではないかと思います。辛い事も、楽しいこともすべてひっくるめて。そんな自分の人生の反省、教訓を生かせるのは、自分の残りの人生か、子供の将来しかありません。経験未熟な子供に、こんな考え方、いろんな選択肢があるのを教えるのが、親の役割だと思います。そして、それを選ぶかどうかは本人次第。なぜなら、子供の人生の主人公は、子供自身だから。

息子が小学校の時は、「遊ぶのが子供の仕事だ」と伝え、私達は「勉強しろ」と言ったことはありません。「家事手伝いをしろ」とは言いましたが。特に、浜松での5・6年生の夏休みは、宿題が選択性だったのを幸いに全くやらず、キャンプなど野外活動にどんどん出掛け、夏休みの半分しか息子は家に居ませんでした。「人生は楽しい」ことを実感、知れば、その後つらい事を乗り越えるエネルギーになると信じ、大いに遊ばせました。

息子が中学になった時、「学校の勉強なんか、大学入試が終われば何も役に立たない。もう一つ打ち込める柱を見つけなさい」と言えば、彼は愚直に3年間剣道を続けました。冬場、籠手を打たれ腕が腫れ上がっているのを見て親が休めばと言っても、「僕が休めば、皆に迷惑がかかるし、自分に負けたことになる」と言い、彼は頑張り続けました。

愛知県の高校へ進学し、1年間一人暮らしすることになった息子に、「学生の勉強は一人でも出来るけど、会社の仕事は一人では何も出来ない。人間関係、チームワークが大切になるから、良い友達を作れるといいなあ」と助言しました。

一方、私が浜松から東京営業所に転勤し、家族で川崎に住むようになったのは、不本意でつらい事でした。夜遅く仕事を終え帰宅する際、「何で俺は、こんな所に居るんだろう」と何度か嘆きました。自業自得なのに。ある時、「もしかしたら、ここ川崎に住むことで、子供、家族にとって、将来プラスになるかもしれない。」と気づき前向きに考え直すことにしました。「幸せは自分一人だけの単位でなく、家族トータルで考えよう」

息子には、「地元の国立大学に入ってくれればなあ。入れるといいなあ」との親の思いに対し、進路を決める高2の冬、モチベーションを高めるために、息子は遥かに高い目標を掲げました。

それは、私には思いも寄らなかったチャレンジスピリットでした。そして、その想定外だった大学に彼は受かったのです。息子の努力が報われ、こんな嬉しいことはありません。しかも息子は弓道部を3年生春の県大会まで続け、友だちにも恵まれました。親友3人で、この間、青春18キップで卒業旅行に行って来ました。彼は勉強、部活動、友だちづくり、全てをこなし、楽しい有意義な高校3年間を過ごしました。そんな息子が、羨ましくもあり、私の自慢です。

（4月12日の川崎教室での早朝演壇より）

連　載

父親の役割　②

岐阜ブロック　小寺房征

Ⅰ　生い立ち

新しい仕事

結婚してしばらくしてから、私も脱サラし新しい仕事を始めることにしました。婦人服の裁断の仕事です。周囲は大反対でしたが、義父（以下、「父親」と呼ぶ）だけは応援してくれました。時期ごとに報告に来なさいという条件付きでしたけれども。でも応援してくれる人が父親でしたので、うれしく思いました。

1週間過ぎたら、報告に来なさいということで、1週間後に報告に行きました。1週間は準備とかであっという間に過ぎました。夕飯をご馳走してくれ、私の話しを聞いてくれました。また1ヶ月過ぎたら話しを聞かしてくれということでその日は帰りました。

お蔭様で仕事は順調に入り、こなしていくことが出来ました。始めてのことでしたので、大きなミスを犯して落ち込んだりしながら、1ヶ月が過ぎて父親に報告に行きました。ミスをしたりしながらも、お客さんも少しずつ増えていき、波に乗れそうになっていること、ミスを重ねたことなど、いろいろ話しました。そのように話していくうちに私の心も落ち着いていきました。

父親の励まし

父親は何も言いませんでしたが、「そうかそうか大変だったね、誰にでもあること、でも過ちは繰り返さないように」と一言。「今日はビールでも飲んでゆっくりしていきなさい、また3ヶ月たったら来なさい」と、条件が出されました。

それから半年、1年、3年と約束させられました。そのように日にちを区切って約束させられたので、目標をもち、これだけの報告をしたい、そんな思いから、ひとつの目安、目標になって、励みになり、また、じっくり話しを聞いてくれたので、心を冷静にすることが出来ました。「世の中大変なことがいでき湧くけれども、それを乗り越えていくことが人間だよ、それを乗り越えて逞しくなっていくんだよ、お客さんは両親と思って付き合いなさいよ、社員は兄弟だと思って付き合いなさいよ」といった父親の言葉の一つ一つが、心の糧となり、仕事の指針となり、良い父親にめぐり合うことが出来て大変うれしく思いました。

私が28年間求めていたものは、共感してくれる人、私を認めてくれる人だったのだと始めて気付きました。ここで28年間の心の空虚感が埋まりました。

人生学講座

Ⅱ　父親講座

事の発端

私は岐阜地区で生きがい講座を開催しております。また、これからもずっと続けてゆきたいと思っております。最初の頃は父親講座と銘うっていました。第一回「日本人の心意気」、第二回「男の責任」、第三回「夢のある家庭と父親」、第四・五回「子供たちに伝えていくもの」と順次開催いたしました。始めは参加者が15人ぐらいで散々でしたが、今は100人ぐらいの講座になっています。

事の発端は、私の知り合いの家庭の出来事からです。彼の家に遊びに行った時のことです。父親が子供と遊んでいたのですが、子供が何を思ったのか父親の頭を拳骨でこつんと殴りました。彼（つまり父親）は、「ごめん、ごめん」と言っている。また母親を見ると、何事もなかったように笑みをうかべている。なんという家庭、こんなことがあっていいものか、凄い憤りと怒りを覚えました。

私と、おじいさんがテレビを見ていても、子供たちは私にかまうことも無く、チャンネルを変えてしまう、普通の親ならここで、「お客さんが見ているから変えてはだめ、お客さんに聞いてごらん」とか言うべきだろうに、子供中心の家庭になっている。何かおかしい、一家で一番大切にしなければならない祖父母であるはずなのに。

それからしばらくしておじいさんが倒れました。寝たきりになり，養護施設に入れるという事でした。私は反対しました。何か狂っている。おばあさん、つまり奥さんもいる、まだ70歳手前で元気だ、何でも出来る。息子夫婦がいる。子供も中学生、小学校高学年が二人で三人いる、手伝いが出来る。おじいさんの年金も入ってくる。家も自分のうちで二軒もある。経済的にも、条件的にも、まったく問題ない。うちで面倒を見ようと思えば見れるはずなのに。この息子夫婦の心ひとつなのに。

しかし、施設に入れてしまいました。子供たちに親を大事にするということを教えていかなければならないのに、敬うという心を教えていかなければならないのに、祖父母、老人は家庭の宝だということを教えていかなければならないのに。命の尊さと言うものを教えていかなければならないのに。自分自身が親を大事にしないで、子供に親を大事にしなさいと言えるのでしょうか。この家庭には敬う対象が無いように思えました。

こんな事ってあってよいのか、これでいいのか、施設が充実し、たくさん出来てきて、自分たちが楽をしたい、自分たちの生活をしたい、そんな心が見えてきます。どうも今の平均的な家庭の中身みたいです。こんなことではいけない、これでは日本はだめになる。そう思ったからです。　（つづく）

♪♪♪ 投稿コーナー② ♪♪♪

講師と同じ３つの体験

城西ブロック　　土井　康嗣

月に一度のマスターズの人生学コースに通っています(このところは2ヶ月に一度のペースになっていますが)。会場は町田にあるので都心からは少し距離があって、片道1時間20分かかります。平成18年12月の首都圏交流会で、会長から「スコーレには遊び心がある」というお話がありましたが、会場に着くまでは「遊び心」で、新宿から町田までは小田急のロマンスカーに乗り、車中でコーヒーを飲みサンドイッチを食べ煙草を吸い（現在は禁煙）、本を読みながらというように、道中を楽しみながら行くことにしています。その本についてですが、読書は40年間継続しています。傍らには必ず読む本を切らしたことがありません。ここ25年間は自然・地理・気象・気候・鉄道に関する分野の本を読むことが多く、現在は「地球温暖化」に関する本をよく読んでいます。

さて、マスターズ研修ではいろいろな方々の参考になる体験談が数多くあるのですが、その中で講師の方と同じ体験をしたことが三つありました。

19年2月18日：永池会長談

◎　寄付・献金・ご祝儀・香典は見栄で出さない。ケチって出さない。高いなと思ったら、少し金額を下げて気持ちよく出せる額を出す。ある故人に香典を高く出しすぎると、故人と関連した人（故人の妻または夫や兄弟姉妹）が死亡した時も、最初の故人と同額の香典を出さなければならない時があり、高額と思う金額の香典が続き、損をした気分になる。

またある故人に対して、自分と同じ社会的地位の人と同じぐらいの関係があった場合、それらの人達と比較して低い金額の香典を出すと、あとから恥ずかしい思いをする。そしてこの損した気分や恥ずかしい思いが長く続く。

19年8月19日：小俣代表幹事の体験に基くお話

◎　中小企業はプレイングマネージャーを求めている。些細なことでも何でもできることが必要。

自分は中小企業の経営をしていますが、殆ど一人ですべてをやっています。何でもしなければならずまったく同感です。

◎　パソコンができない人は、中小企業では使いものにならない。取引先の会社で長い間勤めていた人(年配の人)が、これからパソコンをやれといわれたら、ノイローゼになって会社を辞めてしまいました。

マスターズ研修では、せっかく時間をかけて出席しているので、出席したときは何かをつかんで帰りたいと思っています。

青	朱	白	玄
春	夏	秋	冬

20年ぐらい前であったろうか。同僚とあまり広くないスナックで遊んでいたとき、少し離れた席の全く知らない客が私の似顔絵を書いてくれたことがあった。おたがい酔っていたし、薄暗い中で書いてもらうこともあって絵の出来ばえについては大したことはないだろうと内心たかをくくっていた。しかし、出来上がった絵を見せられて驚いた。そこには父親の顔があった。

そのとき自分の顔を鏡で見たが、父親の顔はない。しかし絵には父親の顔がある。書いた人は見たままを表現しただけのことであったろうが、鬼瓦という形容がピッタリの父親の顔には似ていないと思い込んでいたので、どこをどう感じてそのように描かれたのかいささか衝撃であった。その似顔絵をどうしたかの記憶はないが、同じ血が流れていたということを見ず知らずの人から絵を通じてあらためて教えられた。その後、その人と二度と会うことはなかった。　　（梶 田 健 二）

事 務 局 便 り

当面の行事予定

■10月～3月	下期マスターズ研修（本部研修室）
■11月14日	第8回川上杯懇親ゴルフ（中津川カントリークラブ）
■11月下旬	マスターズ通信29号
■12月13日	首都圏地区交流会（町田エルシー）
■12月14日	全国一斉ユニセフハンドインハンド募金活動

＊編集後記

北京オリンピックでの日本人選手の活躍に、たくさんの感動をもらいました。34年前の東京オリンピックの時は日本中が今回の中国に見るような興奮の中にいたと思います。今度のオリンピックでは、日本人メダリストが口々に周囲への感謝の言葉を最初に発する場面が随分多くあったように思います。

現代の競技はとても一人の力で勝ちあがれるものではなく、多くの人々のバックアップの結果であろうと思います。メダリストの努力と謙虚かつ感謝の気持ちこそが彼らを勝利に導いたものとも思えるのです。　　（岡本一誠）

編　集：社団法人 スコーレ家庭教育振興協会
スコーレ・マスターズ　広報委員会
発行人：小俣富雄
〒194-0013　東京都町田市原町田4-7-12
TEL ： 042-728-7948
http://www.schole-masters.org